

## もうひとつの2025年問題

我々の医療業界において2025年問題は真剣に取り組んでいる課題のひとつで、今後必ず訪れる少子超高齢社会にそなえ、地域医療構想の策定や地域包括ケアシステムの構築などが急がれている状況である。

ところが、我々が思わぬところにも2025年問題が潜んでいた。

これは、30年通っているなじみの散髪屋での一コマである。店主が、心地よいリズムで私の髪を切りながら

「先生、この頃子供たちが少なくなってね～。ここら辺りには散髪に来る子供たちがわっぜ減ったがよ～」

「しかもね～、道端で子どもたちにちっとでん声をかければ、変なおじさんが声をかけてきたち、学校中大騒動（うそど）になったちよ～」とおもむろに世間話を始めた。

「そうね。医療業界も2025年問題で言ってね、少子化と超高齢社会の到来に備えてベッド数を検討したり、患者さんを在宅で看れるようにとか、いろいろな施策を打ってるんだよ」

「そうなんだ・・・」話をしながらでも店主は軽快にはさみを操り、私の髪が徐々に整っていく。

「けど、しばらくは高齢者がまだ増えるから、散髪屋さんにくる子供は少なくなっても高齢者は増えたんじゃないの？」と私は素直な疑問を投げかけた。

「それが違うのよ。散髪に来る高齢者も少なくなっただよ。だってね、年をとると髪の伸びるスピードが遅くなって、散髪にあんまりこなくてよくなるわけよ」

東区・紫南支部  
(上ノ町・加治屋クリニック) 上ノ町 仁

「そうか～、散髪屋さんにも少子高齢社会の問題があるんだね～」なるほど、こんなところにも2025年問題があったのかと少々考えさせられた。

・・・

「しかもね・・・『おいのびんたは禿げちょっせー髪んの毛が少ななかで、散髪代を半分にせー』・・・ちゅう輩もおって、対応に大変じゃったっど！！」

・・・

チョキチョキと店主が奏でるはさみの音色を聴きながら、「なるほど、そのフレーズ！10年後の私が使わせていただきます！！」と、私の心の声がつぶやいていた。

